

大刀洗町『自分ごと化会議』～大刀洗町の農業の未来～

第2回 次第

日時：令和6年11月2日（土）13:00～16:00

場所：大刀洗町役場 3階大会議室

1. 開会

2. 前回の振り返り・今回の内容確認

3. 議論

○第1回欠席者自己紹介

○地元の農家さんの紹介、事例紹介（自分の事業、大刀洗町の農業について）

矢野 賢一さん（米・野菜）

大谷 美恵子さん（いちご）

○担当課説明

○議論

4. 町長あいさつ

5. 事務連絡

6. 閉会

<今後のスケジュール>

第3回会議：令和6年12月21日（土）午後1時～

第4回会議：令和7年 2月 2日（日）午後1時～

第1回大刀洗町自分ごと化会議 議事要旨

日時	2024年10月12日(土) 13時00分から16時00分
場所	大刀洗町役場3階大会議室
会議参加者	出席者数17名(欠席者数6名)
大刀洗町	町長、副町長 事務局：地域振興課 説明担当課：農政課、農業委員会
コーディネーター	伊藤伸(構想日本 統括ディレクター)

概要

- 開催挨拶
 - 町長より挨拶
 - コーディネーターより挨拶
- 「自分ごと化会議」とは？ 全体の流れと進め方の説明(コーディネーター)
- 自己紹介
- 全体説明
 - 大刀洗町の農業の現状と取り組みの説明(農政課)
 - 兼業農業について(副町長)
- 協議
 - 話し合い
 - アンケート記入
- 事務連絡

会議内容

1. 開催挨拶

(1) 町長より挨拶

- 委員の皆様にご参加いただいたことに心から感謝している。
- 今回も含めて339名、大刀洗町の人口の2%を超える皆様に住民協議会の委員を経験していただいている。
- 今回の住民協議会では、大刀洗町の農業の未来をテーマにしている。
- 現在農業を取り巻く環境は農業従事者の高齢化や後継者不足に加え、燃料価格の高騰や肥料高、飼料高、資材高など、大変厳しい状況にある。
- 大刀洗町では、平成29年度九州北部豪雨以来、この8年間のうちに、6年間、大雨災害に見舞われており、農作物はもちろん農地や農業用施設にも大きな被害が生じている。
- 国では25年ぶりに食料農業農村基本法が改正され、地域においても、地域計画策定などまさにこれからの数年間が地域の将来の農業のあり方を左右する大変大切な時期ということを考えている。

- 農林水産省の令和5年度食料・農業・農村白書によれば、日本全体で基幹的農業従事者数は2000年の約240万人から、2023年には、約116万人と半分になっており、年齢構成もピークは70歳以上。
- 20年後の農業従事者の中心となることが想定される60歳未満の農業者は、約2割の24万人程度。
- 10年後、20年後の大刀洗町の農業を想定した場合の最大の課題は後継者の確保。
- 今回の委員の皆様は、農業に直接関わっている方は多くないかもしれないが、それぞれ、生産者として、あるいは消費者としてそして地域住民として、それぞれの立場から、大刀洗町の農業の未来を自分ごととして考えていただければ幸い。

(2) コーディネーターより挨拶

- この協議会は、住民の皆さんが地域の課題について話し合い、より良い町づくりを考える場。
- この協議会は、大刀洗町が最初に始めた自治体で全国に広まった。
- 無作為で当たるのは住民の4%。さらにその中から18名の方が手を挙げてくれた。
- 皆さんの生活と深く関わりのある農業について考えていく。
- 4回にわたるこの協議会を通して、皆さんが楽しめる場を作りたい。

2. 「自分ごと化会議」とは？ 全体の流れと進め方の説明

コーディネーターから、資料に基づき説明。

- 行政への住民参加は、以前は公募方式や推薦方式が多かった。
- これからは無作為抽出方式を加えることで、住民と行政の距離を大きく近づけることが期待できる。
- 大刀洗町は条例で住民協議会を設置することになっている。全国で唯一。大きな特徴。
- 条例で設置されている協議会なので、最終的に町に提出する提案書に対して、行政は受け答えをするという義務が発生する。
- 自分ごと化会議は、身近な問題を行政任せにせず、住民自らが行政の取り組みについて考え、意見を出し合って課題解決を目指すことを目的にしている。

【特徴】

- 参加する住民の選び方が無作為抽出
- 地域の課題について、生活から見える現象をもとに住民間で議論
- 「自分ごと」で考え「個人でできること」「地域でできること」から考える
- 自分ごと化会議の応募率は、全国平均 3.8%（中央値 2.8%）だが、大刀洗町は昨年度 4.7%、今年度 3.7%だった。
- これまでに大刀洗町で自分ごと化会議（住民協議会）に参加した住民は319名で、OB・OG会も発足している。2018年には、OB・OG会が町議会議員を招待するという、これまでに見られなかった構図の会議も開催された。※説明内容の詳細は、別紙会議資料をご覧ください。

3. 自己紹介

コ：次に、自己紹介を兼ねて、以下のことについてご発言いただきたい。

【①名前・地域、②大刀洗町に住んでどのくらい、③仕事（所属）、④農業との関わり、⑤町の農業について感じていること】

① 名前・地域

名簿のとおり

② 住み始めてからの年数

- 1年未満：0人
- 1～10年：2人
- 11～20年：7人
- 21～30年：1人
- 31～40年：3人
- 41～50年：1人
- 51～60年：1人
- 不明：2人

③ 仕事（所属）

- 介護関係
- 会社員
- 独立行政法人
- 農業協同組合
- 自動車部品工場
- 植木農園
- 飲食店（ラーメン屋）
- 学校教員
- 高校生
- 元教師

④ 農業との関わり

- 父親が農業をやっていた。
- 教師時代、授業で田植えをしていた。
- 子どもが2人農学部に進学した。息子はJAでバイトしていた。子供は農家を志していたこともあったが、親として天候に左右される仕事は不安だと伝えたところ、今は別の仕事をしている。
- 自分の会社の商品で、米を冷やす機械を扱っているという点で関わりがある。
- 今までも全く関わりがない。
- 生産指導、経営指導をしている。米の価格の上昇は真っ当であると感じている。
- ダムの管理をしている。ダムの水が農業用水にも使われている。
- 実家が農家。
- 農業にはあまり関わりがない。
- 学生時代のトマト農家のバイトをしたくらい。

- 夫の実家で米を育てていて、貰えるから昨今の米不足はあまり意識していなかった。
 - あまり関わりがないが、授業で教えることもある。
 - 業務で農家と関わることもあり、苦しい印象を受ける。
 - 小学校の授業で赤米を作ったことがある。
 - あまり関りがない。
 - 祖父母の農業の手伝いをしたぐらい。
- ⑤ 大刀洗町の農業について感じていること
- 休耕地が増えていると感じている
 - 子どもが東京に行ってしまうと帰ってこないため農地や農機具をどうしようか困っている話を聞く。
 - 枝豆祭りが社内で話題になっていて誇らしい。
 - 農業従事者に外国人が最近増えたと感じる。
 - 家の手伝いはしていたが、今はできないと感じている。農家は高齢化も進んでいて、最近では外国人も働いている。
 - NHKの特集で、大刀洗の枝豆が出てきて初めて意識した
 - 大刀洗の枝豆祭りは人が多くて駐車場がないというイメージがあり、行ったことはないが、機械があり枝豆を食べてみるととてもおいしかった。もっと広めていったら大刀洗の枝豆が有名になるのにと思っている。
 - 枝豆は有名になっていっていると感じる。
 - 田んぼがアパートに変わっていった印象がある。
 - 田んぼが減っている印象。将来の職業を考えた時に、農家を考える人は周りにほとんどいない。収入が安定しない印象。

4. 全体説明（農政課、副町長）

(1) 大刀洗町の農業の現状と取り組み（農政課）

農政課から、資料に基づき説明。

- 大刀洗町の概要
 - 位置：福岡県筑後平野の北東部
 - 面積：22.84 平方キロメートル
 - 地形：平坦な農地
 - 土壌：北部は酸性土壌、南部は肥沃な沖積層
 - 主な作物：米、麦、野菜（ほうれん草、レタスなど）、植木
- 人口と農家数の推移
 - 人口：現在約 16,000 人。人口は減少傾向にあったが、近年は微増傾向。
 - 世帯数：核家族化が進み、世帯数は増加。

- 農家戸数：平成 22 年と比較して、令和 2 年には約 40%減少。特に販売農家の減少が目立つ。
 - 主副業別：主業農家、準主業農家ともに減少傾向。
 - 基幹的農業従事者：10 年間で 36.6%減少。特に 30 代、40 代、50 代の減少が目立つ。
 - 経営耕地面積：1.0 ヘクタールから 2 ヘクタールの経営体が最も多い。大規模経営体は増加傾向。
- 農業産出額
 - 総額：令和 4 年は 34 億 9000 万円。
 - 品目別：野菜（ほうれん草、レタス）の生産額が特に高い。
 - 減少傾向：コロナの影響もあり、若干減少傾向にある。
- 農業への取り組み
 - 新規就農者・女性農業者への支援：
 - 相談、資金支援、研修の実施
 - 大刀洗町担い手育成総合支援協議会の活動
 - 補助事業：
 - 農機具購入支援
 - 農業用ハウスの被害軽減対策
 - 農地利用型農業振興支援
 - 農業用地基盤整備事業
 - 経営所得安定対策事業など
- 課題
 - 高齢化と後継者不足：農家の高齢化が進み、後継者不足が深刻。
 - 農地の減少：都市化や高齢化に伴い、農地が減少している。
 - 農業所得の減少：農業の収益性が低下しており、経営が困難になっている。

※説明内容の詳細は、別紙会議資料をご覧ください。

(1) 兼業農家について (副町長)

- 副町長をしながら栽培をしている兼業農家、副業的農家。
- 大刀洗町の代表的な作物である水稻の 1 年間の流れを説明したい。
- 6 月に田植えして草とか肥料をやって、消毒して取り入れ。
- 11 月ぐらいに麦やレタス、ほうれん草等の野菜 6 月ぐらいまで作る。
- 枝豆は 4 月から 6 月ぐらいに収穫する。

- 大豆は7月に作って、11月も収穫する。
- 基本的に農地は、奥行きが100メートルとなっている。
- 農地は以前は三角形や水路に合わせた形だったが、約40年ほど前の補助整備で道路と農地が整理された。
- 一反は約1,000㎡で、坪数でいうと約300坪。
- 自分のコンバインやトラクターで作業する時間を考えると約40時間。1日6時間労働として、約6日半ぐらいの時間で米はできるので、感覚より意外と短いと思った。
- 普通のサラリーマン農家は、こういう形で夏場に農作業して、10月に採り入れして終了という形で農業をしている。

5. 協議

(1) 話し合い

コ：まずは今日、大刀洗の農業はこういう雰囲気だということをご皆さんと共有できればと思う。まずは、今の説明について質問や意見はあるか。

委：自分は久留米のJAに務めている。久留米は山間地があるので遊休農地の面積が3%、4%もあり、特に山間部は遊休資産、遊休地となっている。それは、大刀洗と大きく違う点。自身の所感として、大刀洗は非常に優良で、基盤もしっかりした地域だと思っている。特に水稻や麦が作りやすい環境。

しかし自分の近所の農地では、1丁近くのビニールハウスが建っていて、麦はない状況。

久留米では果樹が盛んで藤山では梨やブドウ、柿があるが、大刀洗についてはもう果樹はほぼブドウが少しあるだけ。やはり、野菜が盛んな場所だという印象。

コ：近くても、意外に取れるものや土地の違いは大きい。耕地面積は令和元年度から少し減っているが、これは委員が自己紹介の際に感じる事として話していた通り、宅地化されているということか

農：基本的にはその認識でよい。宅地開発が盛んに行われている地区がある。その他、公共事業で調節池の整備を行うため、10ヘクタール農地が転換する予定となっている。

委：大刀洗の方ではない知り合いが農家をしているが、米の値段が上がっている影響か、年間の買占めをしたい、契約したいという話があると聞く。そこで、大刀洗のお米はJAに全部売っているのか気になった。どういうふうに米が売られているのか気になる。

コ：大刀洗で収穫された米の販売はどういう流れになっているか。答えていただける方はいるか。

委：自分は別のJAだが、一緒だと思ひ話す。JAの出荷というものが当然あるが、その他に一般民間流通をしているところもある。分かりやすい所と言えば、県道沿いにある。そういったところでも米を集めている。出荷先は農家の自由なので、かなり流れているという状況。自分で売る農家は、家に乾燥機があって、きちんと粳摺りまでできて、玄米の状態です袋に詰めて売ることができる。自分のブランドを売りたいというや得意先がいる農家はこのようなことができる。

コ：東京では米不足によってスーパーで個人が買占めていたが、契約している農家の中の買占めはあるのか。

委：去年米を持ってきた農家さんが今年は持ってこない。これは、買取価格が正直JAの価格が負けているというのがある。生産のやり方が違って、民間は60キロで2万2000円ぐらいで出しているが、JAは最初は概算金1万円。最初に概算金である程度出して最終年度で3年後にまたプラスして金額を

出すっていうやり方をしている、どうしても生産に時間かかるっていうことで、民間の方に持っていかれるっていうことが多い。最初の手取りがどうしてもそこで差がつくので、2年後にも3年後にもらっても仕方ないよというが民間に持っていつている。

コ：今の話の中でどなたか補足的にお話はあるか。

委：自分は民間に持っていつている。JAに出すと、概算払いで約5割6割が前払いであり、2年3年後に清算払いということで、申告するときに訳が分からなくなる。民間に持っていつれば、もうその場でもきちんとお金が入るといって結構持つていく人が多い。

委：設備や肥料であったり、人件費であったりのコストや今後の投資率、将来的なリスクを考えたり、現在の利益率を理解しておかないと、負の遺産を家族に残すことになるかもしれない。

コ：ちゃんと利益が上げられているのかどうか分かる数字は、何かあるか。

農：販売金額を示すものはあるが、経費のマイナスはそこには含まれていない。資料は今後準備したい。

コ：高校生から農業が就職の選択肢に入らないという話があったが、儲からないとやろうと思わないんじゃないかと思う。実際、業として成り立っている農家さんはいると思うがそれは一部なのか。

委：おそらく兼業農家は赤字ではないかと思っている。機械類の減価償却が大変で、機械の更新ができない。兼業は今後少なくなっていくと思う。黒字になるのは10町からでそのぐらいの面積で農業をしていれば生活ができると思う。あとは、いちご等の収益性の高い作物を作っているところ。生産高は水害や気候によるムラもある。農業は結局安定してないところがあるのが一番難しいと思う。

委：水稲だけ作ってる兼業農家は、年間30万ぐらいの赤字じゃないかと思う。様々な作物を作り、小麦で農薬代とか機械代を出して、あと野菜とか果実で利益を上げるという形になる。

委：ドローンを個人で導入している人はいるのか。

町：個人で保有されている方は少ないのかなと思っている。組合法人で何人かの農家さんが集まって組合をされ、農事組合法人として活動されている方がドローンを入れたりする方が多い。

委：農業の経験がないので、どんなことが大変か具体的に知りたい。

副：一番大変なのは、6月から8月の間、夏にあぜ道の草木を刈る作業。

委：農業の担い手はどんな方がいるのか。兼業、組合とか会社とかあると思うが、種類とか割合を知りたい。

町：自分の土地だけをやっている方やと経営規模が一定以上の認定農業者。あとは集落営農といって、単独でやっていた人が10件なら10件まとめてやってしまおうという、地元でそういった集団を作っていたりする。

コ：大刀洗町として目指しているのが、担い手を減らさないこと。認定農業者であったりとか、法人、規模大きく農業やってくれる人を増やしたいと思っているということか。

町：今後小規模農家が減る中で耕作放棄地を増やさないために、そういった集約化が重要になってくると思う。

委：輸出額はどうなっているか。金額が少なくても、とても儲かっているのであれば、真似すればいいのではないかと思った。

町：大刀洗の場合は、平地であるため、どうしてもほうれん草等のコストがかかるものが多く、果物のような高付加価値のものは少ない。

コ：ぜひここまでの話を受けて、大刀洗町の農業委員会の会長さんにもお話を伺いたい。

町：日本の食料自給率は38%くらい。カナダは266%、オーストラリアは200%、アメリカは132%、フランスが125%、ドイツは85%、それからイギリスが65%、イタリアが60%、それからスイスが51%。食生活が急激に国際化し、米以外のものを食べる人が増え、生産が間に合わないという状況。飼料、農薬、人件費が高かったり、高齢化が進んでいたり、農家はもっと減っていくと思う。大刀洗では、私が農業委員会を始めて15年で1920人の農家が620人、三分の一になった。後継者は、中々入ってくれないという状況。大刀洗町でも15年で150ヘクタールの田んぼがなくなっている。日本に住んでいる人々の食料がだんだん作れなくなることが心配だ。

コ：今日の話を中心に振り返りたい。大刀洗は久留米と違い、大刀洗は平地が多く、現在、使っていない農地が少ない。また、大刀洗町に限らず、全国的な流れで、後継者不足が問題になるととも、農家の単価が安くなっているということだった。米農家が生産した米は農協に全て下ろしてあるわけではなく、直接契約という場合もある。黒字化には規模が大きさが必要で、農地面積が10町は必要。こういった面からできるだけ担い手を、法人や認定農業者というある程度規模のあるところに移していこうというところを大刀洗町は目指している。農業産出額の中の輸出額はかなり少ないのではないかなと考えられる。一つの要因として野菜とかですね、単価がなかなか高くないものが今、大刀洗の中心になっていることが考えられる。これを受けて、次回に向けて皆さんには、2つのことを考えてみていただきたいと思う。

「大刀洗の農業が今よりも活性化するために自分は何ができるか」

「大刀洗の農業の良いところ」

活性化という言葉自体も、人によって捉え方が違うと思う。産出額が増えた方がいい、産出額でなく農業をしている人の増加、維持なんじゃないか等、いろんな考え方があるかと思うので、家族等にも聞いて考えてもらいたい。

最後に高校生に感想をもらいたい。

委：日本の食料自給率とか38%と聞いて驚いた。確かに外国産の方が食べる機会が多いと思った。

委：話を聞くと、農業は自分が思っているよりも、衰退しているのかなと思った。大刀洗の良さとか、今の課題とかを結構知れたのは大きかったと思う。

委：自分が一番印象に残ったのは、県や町が農業に補助をしているということ。

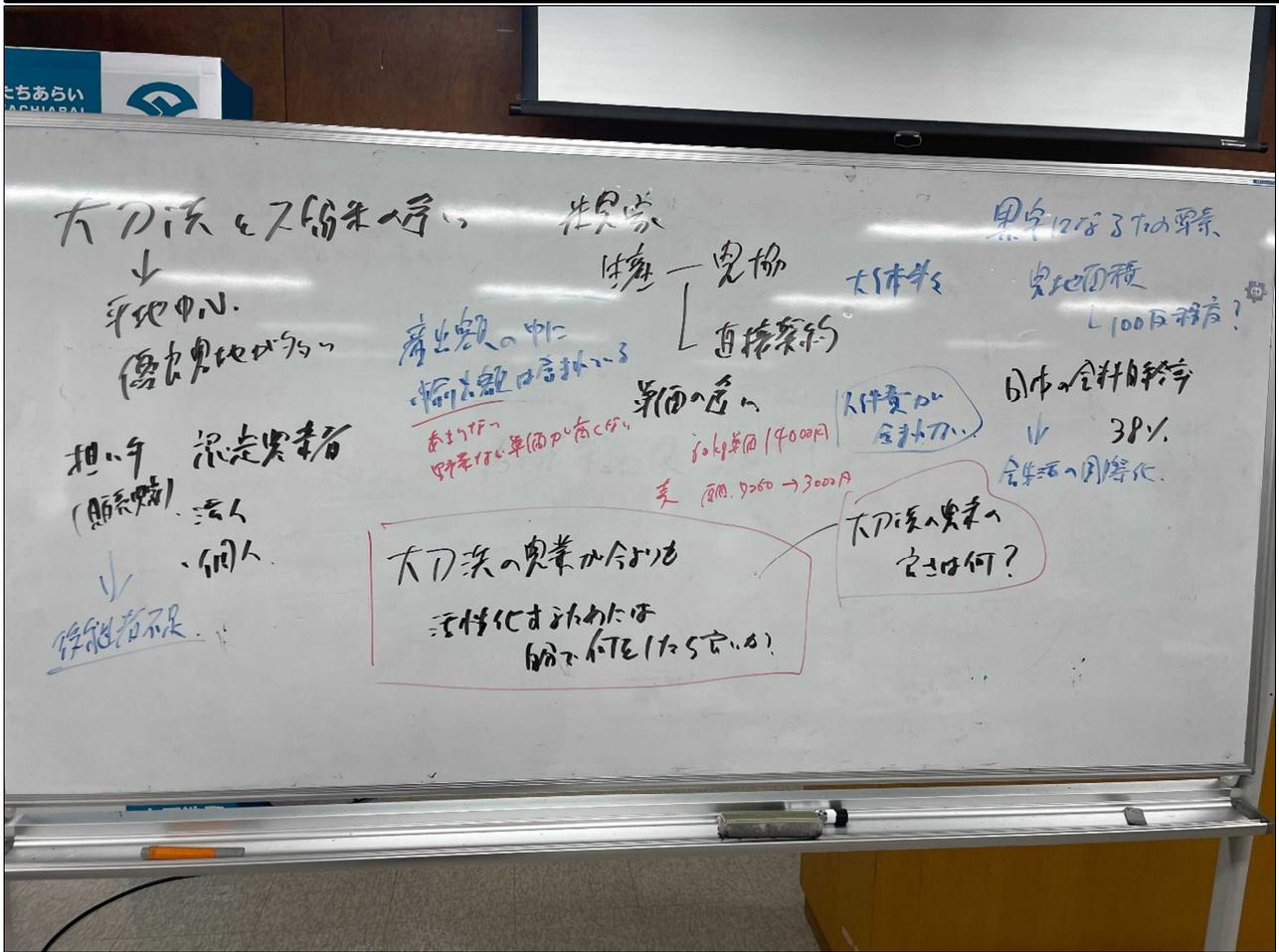
コ：これで全体協議を終わりにしたいと思う。

6. 事務連絡

地域振興課より事務連絡

- 第2回は11月2日（土）午後1時から開催する。

ホワイトボードの写真



次回協議予定の概要

- 「テーマ」
 - 大刀洗の農業が今よりも活性化するために自分は何ができるか
 - 大刀洗町の農業の良いところ

大刀洗町住民協議会 第2回 改善提案シート

名前: _____



あなたが考える現状の課題

その課題を解決する方法

<例> 公園が利用されていない	(住民の役割) ・個人として 知らない公園が多いので把握する ・地域として 草刈りなど、公園整備をサポートする 休憩用のベンチを提供する	※QRコードからの 回答も可能です。
	(行政の役割) 街の中にある遊び場の情報収集し、地域住民へ 情報提供する	
	(その他)	

あなたが考える現状の課題

その課題を解決する方法

	(住民の役割) ・個人としてできること
	・地域としてできること
	(行政の役割)
	(その他)

あなたが考える現状の課題

その課題を解決する方法

	(住民の役割) ・個人としてできること
	・地域としてできること
	(行政の役割)
	(その他)

地域の担い手となるモデル的営農類型(経営試算例)

(資料:JA みい農業振興計画書 2022 より抜粋)

例1 水稲・大豆・麦作の個別大規模経営(認定農業者)

○経営の概況(15ha)

- ・認定農家が水稲・大豆・麦を作付けし、共乾利用
- ・経営所得安定対策等加入し、大豆収穫は生産組織委託

○経営規模

- ・水稲 8ha ・麦 15ha ・大豆 7ha

○主要機械装備

- ・トラクター 3台 ・田植え機 1台 ・コンバイン 1台 ・播種機 1台 ・乗用管理機 1台

○経営

- ・粗収益 28,660,000円
- ・所得 11,023,000円

例2 家族労働中心の露地園芸農業 例:水稲経営+リーフレタス

○経営の概況(4ha)

- ・水稲+園芸品目経営 例(リーフレタス+モロヘイヤ)
- ・野菜を中心とした栽培体系 ・共乾利用・経営所得安定対策等加入

○経営規模

- ・水稲 2ha ・リーフレタス 500a ・モロヘイヤ 20a

○主要機械装備

- ・トラクター 2台 ・田植え機 1台 ・コンバイン 1台 ・定植機 1台 ・管理機 1台 ・トンネル資材 1式

○経営

- ・粗収益 30,052,000円
- ・所得 6,752,000円

例3 大規模土地利用型園芸農業(露地野菜) 例:水稲経営+ブロッコリー

○経営の概況(6ha)

- ・水稲+園芸品目経営(ブロッコリー)
- ・土地利用型作物を導入した野菜経営 ・共乾利用・経営所得安定対策等加入

○経営規模

- ・水稲 3ha ・ブロッコリー 600a

○主要機械装備

・トラクター 2台 ・田植え機 1台 ・コンバイン(汎用) 1台 ・コンバイン 1台 ・定植機 1台

○経営

・粗収益 23,928,000円

・所得 5,839,000円

例4 家族労働中心の施設園芸農業 例:水稲経営+イチゴ

○経営の概況(4ha)

・水稲+園芸品目経営(イチゴ)

・施設を導入し、経営の安定化を図る。 ・共乾利用・経営所得安定対策等加入

○経営規模

・水稲 2ha ・イチゴ 40a

○主要機械装備

・トラクター 2台 ・田植え機 1台 ・コンバイン 1台 ・パイプハウス 40a

○経営

・粗収益 15,352,000円

・所得 4,034,000円

例5 生きがいを見出せる農業経営

将来へ向けた新たな作物を模索する農家、高齢者、女性など幅広い農業者へ、品目の組合せにより周年生産体制を組み、直売所販売なども視野に入れた経営を目指す。

夏期	収益/10a	期間
オクラ	380,000円	5~10月(収穫6月~10月)
モロヘイヤ	360,000円	5~9月(収穫6月~9月)
空心菜	426,000円	4~10月(収穫7月~10月)
里芋	145,000円	4~11月(収穫10月~11月)
いんげん	193,000円	4~7月(収穫6月~7月)
しろうり	313,000円	4~8月(収穫7月~8月)
ゴーヤ	486,000円	3~9月(収穫6月~9月)
中ネギ(夏ネギ)	258,000円	3~8月(収穫7月~8月)

冬期	収益/10a	期間
リーフレタス(トンネル被覆)	107,000円	10~3月(収穫2月~3月上旬)
ほうれん草(青果)	251,000円	9~3月(収穫10月~3月)
ナバナ	217,000円	9~3月(収穫12月中旬~3月)